小樽商大緑丘新聞

発行所
小樽商科大学緑丘新聞
小樽市緑町五丁目番外地
TEL 4950
印刷所
有限会社 三和印刷所
小樽市稲穂町西八丁目六番地
購読料 一年 200円 半年 100円

「就職」への反省
新卒業生諸君にあたえる
岡本理一

深刻な就職難のときであつたにもかかわらず、まつたく意外というてよいくらい、ことしも本学では「完全就職」が実現しそうである。昨年の九月頃、銀行や大商社からの申込が少く、また十月になつてそれらの入社試験をうけた者が、採用人員縮減のため、不首尾に終ることの少くなかつたとき、「完全就職」の実現は至難のことかと思われた。しかし、十二月の初旬から就職状況は好転し、本年の一月には九〇%となり、遂に三月中には全部の者が就職できることとなった。

他の大学では、依然、未就職者が多い今日、また「就職」が「食べる」という生活に直結している現在、とにかく、このように「完全就職」が実現することは、社会のため、また諸君の個人のため、まことによろこばしい現象といわねばならぬ。

○

ところで、このような「完全就職」の実現に際し、私たちは、ただそれを手ばなしで喜ぶだけでなく、「何がそれをそうさせたか」ーということを、とくと考えてみる必要がある。というのは、今回のような「完全就職」が、決して偶然の結果ではなく、そこには相当の必然的な理由があつたり、人為的な手段が講ぜられているし、また、これを知つておくことは、今後の対策上、参考となるところ少くないからである。ではその主な理由として、どんなものがあるか。

第一に、本学の古い歴史、小樽商科大学の良い「伝統」が大きくものをいつていることは、十分に認められねばならぬ。諸君らの中に「伝統」という言葉の意味が分らぬという人があるなら、それを「老舗」（しにせ）と解してもよい。ともかく一流の商社からかなりの申込をうけたが、これら商社の指定校一数校または十数校一に「小樽商科大学」が入つているということは、まつたく「老舗」の然らしむるところであろう。この点、新卒業生諸君は十分に認知して、今後、良い伝統、立派な老舗をつくつていくため、大いに努力してもらいたい。

第二に、緑丘会の先輩各位が非常な御世話をして下さつたことも、就職率向上に大きく役立つている。先輩の中には、就職難で困つている母校後輩の就職を心配して、取引先や知合いの商社へ就職斡旋の労をとつて下さつた人は少くないし、また自分の経営する会社へ後輩学生を採入れられた先輩も多数に上る。その好意と努力に対し、私たちは唯々感謝するのみであるが、この点、新卒業生諸君の十年、二十年後における「伝統」に対する寄与力」の一つを示唆しており、もつて銘とするに十分なものといえよう。

第三に、学校当局が道内で就職市場開拓に努めたことも、あずかつて力があつたものといわねばならぬ。

本州方面の大商社が採用人員を縮減したり、不採用方針をとつたりしたので、札幌、小樽、函館、室蘭、旭川など、道内都市の諸会社に就職口を求めたことも、相当に於いて、大きな成果をおさめている。もちろん、これは、道内の「中小企業」が、経営上、大学卒業生を採入れる必要を認めたが、またそれを本学に向ける機運の生じたことも一因であろうが、[illegible]それに本学の方策がピッタリ合致したため、就職率の上昇をみたわけである。東京方面や関西地方の諸大学でも、相当、本道に進出してきているが、現今のところ、前述のような本学のもつ有利な点に[illegible]的に採用されるものが数多い。ともあれ、今後、本道の経済開発の進展にともなつて、道内諸企業の求人は次第に増加していくことであろう。この点、諸君は、それの中堅的人物となる決意をもつて他日を期し、各自の職場で奮闘く励んでもらいたいものである。

特輯號

道内中小企業への就職の諸君に

以上の外に、ことしの「就職」について注意すべきことは数多い。たとえば、学卒新社員の学識技能や技術以前への依存度など、多くの反省すべきものがあるが、これを述べることは他日に譲ろう。

最後に、道内の「中小企業」へ就職する諸君に、一言、申しておきたいことがある。それは、中小企業の中には、上役や同僚との間の人間関係において、いわゆる前近代的な主従関係に似たものが存し、そのため、勤めの内容で気にものが少くないことである。もともと、「中小企業」はただ規模が小さいというだけでなく、その雇用条件は大企業にくらべて劣つており、また人間関係に親分と子分というようなものの残存していることが多い。それは特にある種の「会社」であつて、社長は主人、一般の家族ともみられる「同族」式のものが少くない。この傾向は東京の中小企業にとくに多い。就職後[illegible]に必要な分限はとられず、人事管理は不十分、労働条件など無視されているのが普通といえる。

ところで、このような就職先の従業員は、[illegible]の家族に組みいれてしまい、昔の大名に対する家臣のように、[illegible]イエスマンにされてしまうので、人間性などほとんど認められていない。しかし、このような「[illegible]れた職業人」になることは、近代的な感覚をもち、理性に富んだ諸君には、彼は予期できぬのではないかと思われる。ここに、一層、諸君の就職をよろこびつつ、猶且、私たちの心配する非合理が存在する。これを根本的に解決するのには、中小企業の経営を近代化するほか道はないが、それは、いますぐにできることではない。この点、諸君の十分な自覚と勇気を望んでやまない次第である。

論説
卒業生に送る
より一層の現實の直視を

卒業生の諸君に心からお祝申し上げる。四年間の学窓に、又就職前での努力が報いられて、実社会に巣立つて行く諸君は前途を希望にあふれていることと思う。然し、何かしら不安を感じている人も少くないことであろう。

現在では、就職して実社会に押しこんで行くことは、奴隷になるのと等しいとまでいわれている。就職となつても、大学を出たからには牛馬の如く働き続ける程ではないが、それ以上に精神的に[illegible]代に身につけた人間性、そして自由を殺さねば、雇用者の利益のために働きを続けなければならない奴隷的労苦を味わされることであろう。

大学を出れば、将来の栄達が約束されていたのは昔のことになつている。たしかに幹部へのコースは開かれている。然し、このコースを終点に達しようとすればする程、奴隷的な苦悩を益々味わされるに違いない。

余剰が大きければ大きい程、雇用者は諸君をたゞ人間らしく求めはしない。ただ精神的に束縛を与えるかで、諸君らの栄達は約束されるであろう。卒業して数年たつうちに、多くの人が苦い経験をくむことであろうが、その時、自らの栄達のため、同僚の成績をあげるために労働者を必要以上に酷使することは、良心的な人なら耐えられないであろう。が、成績を上げなければ上役からは良く思われない。その結果はどうなるでもあるまい。

労働者も亦々同じ人間である。そして亦々以上に職制に依る圧迫は知りつくしている。何れのインテリ以上に強い団結の力を持つている。最近、次の様な事実をよく聞く。即ち、大学出が自らの成績をあげるために労働者に不当な過重労働を課したが、労働者はこの不当な命令に対して団結して抗争を続けた。その結果は成績はあがらず[illegible]してしまった。大学出に雇用者の意に添おうとして労働強化を計ったが結局的にはマイナスとなり、結局は左遷されてしまっている。この事実は今々に深い教訓を与えてくれる。雇用者の意に添わんとしたことでも、利益をあげなければ、結局は雇用者にとってその人の価値はないことを示している。

このように今々大学出の進む道は多難である。

これに対してどうすれば良いか。割り切りした信念を持っている人は少ないであろう。インテリは腰ぬけだといわれている。労働者の立場に同情していながらも、又、雇用側的に大きな利害を持つていて、口にしながらも、実際の行動では、無関心又は冷淡の立場をとる者が多いようである。悲しいことであるがこれが現実である。不安という気がする時代に、このような問い面を述べなければならないことは非常に悲しい。

何の不安もなく、希望にあふれて卒業生が社会に出て行ける日のくることを期待したい。その日のくるのも、そう遠い将来ではあるまい。非民主社会は徐々にではあるが崩れて来ている。[illegible]労働者の意識は高まり、[illegible]卒業生も、決して将来への希望は忘れることなく、又、たとえ表面的には行動できない地位について、すべてを洞察して窮屈な奴隷にならず、常に、社会の現実を理解し、将来の一貫した行動をとる時はこれに応じてもらいたい。今すぐそうすべきだけの心構えだけは持っていなければならないと思う。

経済視察旅行記事

例年のとおり本年も第三学年度生の経済視察旅行を緑丘会の支部の御支援のもとに東京の見学を実施する事になつた。引率教官は岡本助教授に決定し参加人員は八〇名である。

三月三十日午後九時十一分小樽発四月一日午前六時三十五分上野着
旅館 東大前「龍門閣」
見学個所
造幣局、証券取引所、横浜港、三菱日本重工横浜造船所、東芝堀川工場、ラジオ東京等
四月三日午後一時二十五分東京発、午後十一時十九分名古屋着
旅館 東山観光館「蔵山荘」
見学個所
観光、三菱重工名古屋工場、日本ビール名古屋工場等
四月五日午後五時四十分名古屋発、午後八時四十五分大阪着
旅館 日本橋「かねよし」（大和屋分館改め）
見学個所
日本生命本社、松下電器、朝日新聞大阪本社等
四月七日午後五時十分大阪発、午後五時四十七分京都着
旅館 京都駅前「菊屋」
京都市内名所旧跡 見学
奈良 〃 見学
四月十日 京都で解散
（西田記）

卒業生の就職先と卒業論文

▽印は卒業論文の題目
○印は就職先
（順不同）

見寺悟三
▽利子率の理論の研究
○大和ゴム工業株式会社
村上秀
▽デュゼンベリー 消費理論に於ける二大特質
秋本謙
○協栄生命保険株式会社
▽企業資本調達に関する諸問題
○
日向一雄
▽グレアムの国際価値論
○「夕竹炭株式会社」
藤井和一
▽後進国に於ける経済発展の諸問題（I、II、III章）
○北海タイムス
加藤和行
▽JACOB VINER: THE INTERNATIONAL MECHANISM IN RELATION TO MODERN BANKING PROCESSES-STUDIES IN THEORY OF INTERNATIONAL TRADE CHAP VII（翻訳）
○日綿實業株式会社
川島昭三
▽ホートレイ「国際収支均衡対策の時期性と財政性」
○安田火災海上保険株式会社
菊地恭平
▽貨幣数量の伸縮性と経済（ピグウ対ケインズの主たる所論点の比較）
○中央バス株式会社
末利和雄
▽フランスの外国貿易の実際とその発展（一八八〇ー一九一三年）H・D・ホワイトの「フランスの国際収支」の抄訳
○稚内信用金庫
末吉宏一郎
▽J・ヴァイナー「国際貿易論の研究」第六章抄訳
青野修彦
▽貨幣経済循環の数学的モデルとその限界
○北洋相互銀行
小泉旭
▽厚生経済学に於ける厚生概念について
○北海道開発局
町田保一
▽ヴァイナー 国際貿易理論の研究第八章「貿易からの利得」比較生産費原理」の翻訳
○大和証券株式会社
村井康二
▽利子率及び流動性選好、投資関数及び利子及び投資論
○株式会社北洋相互銀行
高田拓次
▽財政政策に関する一考察（政府支出政策を中心として）
○大同毛織株式会社
大森謙
▽日本資本主義社会に於ける完全雇用
○株式会社 [illegible]札幌支店
下田修
▽資本主義の現状及び将来に対する若干の考察
○北海道新聞社
島谷健三郎
▽ヤコブ・ヴァイナー著「国際貿易理論の研究」の抄訳
○ピーエス・コンクリート株式会社
高野誠一
▽外国為替市場安定問題に関する一考察
○
西沢宏一
▽「経済発展と外国貿易に関する経済学的研究」J・バイナーの所説を中心に
○株式会社佐々木商店
田村紘三
▽ミード著 国際収支 第一部ー抄訳 翻訳
○北海道信用農業協同組合連合会
土谷稔
▽J・S・ミルにおける国際貿易論についての考察
○帯広市立高等学校
渡辺稔
▽ドル不足について
○北海道[illegible]株式会社
山村不二人
▽ケインズとマルクスー二つの経済体系の接点と対立ーJ・ロビンソンの所説を中心としてー
○
（早川ゼミ）
広安博
▽投資乗数理論（静態論）と「資本の限界効率」
○北海道拓殖銀行
市村聡
▽経済理論
○
斎藤功
▽ケインズの利子理論
○北海道銀行
宮崎四郎
▽国家と経済
○
吉田和雄
▽デカルトの循環論の研究
○三ツ輪運輸株式会社
早坂遼一郎
▽ピグーの厚生経済学の基礎理論
○北拓銀行
中山哲
▽ケインズ利子理論
○
大沢茂
▽現代経済理論の発展
○旭川ガス株式会社
小川弘夫
▽ケムブリッジ学派の利子理論について
○株式会社 [illegible]札幌支店
佐藤和男
▽成長率概念の検討を中心とする一考察
○株式会社丸井
斎藤隆雄
▽ポール・スウィージーの独占論について
○北海道新聞社
谷内弘文
▽J・A・シュムペーターの「経済発展論」及び「経済循環論」に関するノート
○三井信託銀行
山本孝
▽為替に関する一考察
○前田通運株式会社
佐々木剛
▽為替切下げとその経済効果
○北海道銀行株式会社
樋口宏二
▽スミス資本論の研究
○札幌短期大学
（長谷部ゼミ）
江川勝治
▽近代経済政策序説
○日本勧業銀行
園・馨
▽経済学新理論序説ーケインズ及びハロッド理論の比較するところ
○
林一郎
▽後進国における資本形成の諸問題
○
谷井秀治
▽所得決定と貨・カレツキー論
○北海道電力株式会社
石田義雄
▽ケインズ貨幣論とその展開
○
川崎洋
▽経済理論と経済政策
○雪印乳業株式会社
綾谷安雄
▽ハイエクの貨幣的景気循環理論
○岩田建設株式会社
工藤忍
▽日本経済の成長率に関する研究
○同和鉱業株式会社
村田康男
▽景気循環論ーハロッド及びヒックスの所説を中心として
○
平野和彦
▽長期的停滞の理論
○[illegible]
中原和夫
▽国際貿易理論の応用と後進国経済について
○北海道拓殖銀行

西東　宏
▽[illegible]の創設
○雪印乳業株式会社
大坂昭化
▽厚生経済学への一考察
○株式会社今井
岡崎　仁
▽近代経済学における貨幣の位置—ケインズを中心に
○日本勧業銀行
佐藤富夫
▽近代経済学における貨幣賃銀率と雇傭
○[illegible]信用金庫
藤田秀治
▽景気循環に関するノート
○北海銀行
鈴木憲之
▽利子理論並びに貨幣
○大阪千代田紙株式会社
赤谷誉雄
▽ティンバーゲンの景気循環論に関する考察
○株式会社今井
前川哲郎
▽経済科学としての経済学—その論理のための方法に関する若干の考察
○北洋相互銀行
泉光　稔
▽「近代経済的静態論」—特に乗数と加速度原理の結合を中心として
○北洋相互銀行
山村和也
▽ヒックス景気循環論に関する一研究
○三菱信託銀行札幌支店
結城雅氏
▽「現代銀行論の発展と其の動向について」
○北海道銀行
長谷川登
（[illegible]ゼミ）
▽徳川時代における「前期的資本」範疇及びその封建的機能の必然性に就いての考察
○北海道銀行
藤田俊司
▽フランスにおける近代資本主義の起源
○四日市合成株式会社
関　一郎
▽キニクの道々に関する若干の考察
○小樽経済専門学校
窪納　実
▽近世農村の社会構造
○
日風　潤
▽トーマス・マンにおける東洋主義
○
佐藤一雄
▽日本における近代ナショナリズムの発生
○北海道新聞社
佐藤宏治
▽国人と守護大名
○北一硝子株式会社
牧田和治
▽英国における一三八一年農民一揆
○北海道新聞社
白川純明
▽日清戦争後における朝鮮問題論
○日本長期信用銀行札幌支店
谷　秀雄
▽ハロルド・ラスキ研究
○北海道拓殖銀行
千葉明比
▽開拓使における殖民についての考察—東北地方を中心として
○株式会社三田商店札幌支店
吉田伸哉
▽アメリカ開拓者の特質
○北日本製紙株式会社
（久米ゼミ）
中村弘一
▽海上保険における担保危険
○朝日生命保険相互会社
（石崎ゼミ）
財久保昭実
▽経済分析に関する一方法
○新日本窒素株式会社
野田和夫
▽利潤概念の発展段階への接近
○北海道銀行
浦本朗子
▽キャピタル・ゲインを利得として課税所得の本質について
○ライオン油脂株式会社北海道出張所
今北二郎
▽二部原価計算の経営管理機能
○
磯部勝行
▽国際比較分析法の原理と限界
○[illegible]株式会社
加藤哲一
▽独占価格論
○北海道銀行
川辻達雄
▽グッドウイルは費用資産か
○日動火災海上保険株式会社
小倉俊明
▽企業利益と課税
○
吉岡智明
▽原価に就いての本質的考察—原価論における原価の考察
○
牧野和夫
▽発生主義について
○北海道拓殖銀行
三上和彦
▽企業利益概念の研究—企業利益の方向付的概念に対する一考察
○札幌精工株式会社
中島　勉
▽会計原則上から見た保守主義についての一考察
○
長田利男
▽企業会計と税金会計
○日興証券株式会社
西山光之
▽財務諸表をめぐる税法と企業会計原則についての一考察
○北海道電力株式会社
数田勝一
▽企業会計原則の法律的効果についての若干の考察
○
大久保文夫
▽費用と原価
○三菱鉱業株式会社
尾形武夫
▽「経営論」
○山田木材防腐株式会社
荒木能雄
▽「費用収益対応の原則」の一考察
○日本
新井日昭
▽資本蓄積の本質と資本市場金融（公社債市場と株式）、株式との関係に関する新しい考察
○北海道拓殖銀行
森野雅也
▽会計原則について
○国際興業株式会社
浄田和彦
▽資本調達の原則と資本市場の金融状況について
○北洋相互銀行
宮城　明
▽経営比較方法論
○北海道経済農業協同組合連合会
田沢　亘
▽動的貸借対照表論を支える二概念の論理の考察
○
千葉利男
▽減価償却と資本維持
○株式会社三田商店札幌支店
井山英教
▽減価償却論
○三菱銀行
内田勝夫
▽貨幣価値変動と減価償却
○稲田木材産業株式会社
山崎敏英
▽費用収益の原則について
○
山口[illegible]男
▽財務諸表に関する一考察—シュマーレンバッハの財務諸表論を中心に
（[illegible]）
米田祐太郎
▽減価償却の意義に関する一考察
○
（米谷ゼミ）
岡部　昭
▽資本輸出の戦後日本における現状
○北海道労働金庫
森岡昌一
▽日本貿易の動向及びその分析
○日本鋼管株式会社鶴見工場
小林富三郎
▽日本貿易構造に関する研究
○丸紅飯田株式会社
荒木隆三
▽東南アジア経済開発と日本貿易
荒井　明
▽為替的資料に基く日本貿易の規模的視野—その統制制度の沿革を求めて—
○
矢野一雄
▽日本貿易の分析
○札幌トヨタ自動車株式会社
細川和弘
▽スターリング地域の構造と地位
○株式会社新村商行
川平　龍
▽国際貿易と国民所得について
○国鉄共済組合
（米谷ゼミ）
堀米久則
▽経営者責任論—経営支配と経営支配を対比して—
○小樽市役所
小松嗣夫
▽商業同業組合の問題に対する南部に就いての若干の考察
○大同火災海上保険株式会社
松浦雅司
▽「不況カルテル」—解説論—
○合同酒精株式会社
八島健三
▽近代法における会社機関の機能的地位に就いての一考察
○
○北海銀行
（高野ゼミ）
青山光雄
▽株式会社法における株式の譲渡性（主としてアメリカ法との比較に於て）
○北海道酒類販売株式会社
藤田功明
▽アメリカ株式会社法の行方—資本に関する法制の弾力性—
○日本石油株式会社
桐岡信雄
▽会社法における企業維持の思想
○三井物産株式会社
石井　彰
▽株主権の本質に関する若干の考察—共益権を中心として—
○合同酒精株式会社
北村知一
▽現行商法中異議株主の株式買取請求権
○三菱金属株式会社
香崎治雄
▽商法総則の一般規定、財産人の保存と商法に関する規定
○帝国製麻株式会社北海道支店
白崎一三
▽日米保険業界の比較論
○千代田生命保険相互会社
鈴木康行
▽日本経済の近代的展開
○函館市役所
森田功義
▽「社会法の地位」—特に経済法を中心にして—
○[illegible]
島納七郎
▽企業体制の動向と株式会社法—の株式制度及び新株引受権の考察を中心として—
○東邦生命保険株式会社
内田和彦
▽株式会社資本の法学的考察
○[illegible]株式会社
山崎潤一
▽商品券の有償性とその限界
○三井鉱山株式会社
山田　晃
▽米国会社法におけるアルトラ・ヴァイアリーズ理論を廻る若干の論題
○北海道銀行
米田和彦
▽ケルゼン法学とその批判
○
（古瀬ゼミ）
鵜谷順司
▽近代経営における経営組織—特にコントローラー制度の展開として—
○日銀
藤川泰治
▽経営管理の範囲と対象
○北海道マツダ販売株式会社
瀬谷靖男
▽労働組合
○株式会社栗林商会
鈴木隆雄
▽「プロフイット・マネジメント」に関する一考察
○日新火災海上保険株式会社札幌支店
米山陽七
▽労働協約について
○株式会社新村商行
（[illegible]ゼミ）
武井昌雄
▽株式会社における保守と経営の分離について
○株式会社ヒロセ商会
石川昌二
▽企業経営の合理化—内部統制及びコントロール制度に関して—
○大成建設
加藤　保
▽社会保障への一考察—社会と労使関係—
○北海道木材販売株式会社
中村　昇
▽広告とは何ぞや
○西山自動車工業株式会社
大竹弘之
▽「資本と経営の分離」に関する一考察—企業体制の発展をめぐって
○北海道銀行
広沢哲一
▽経営者支配の問題
○協栄生命保険株式会社
我妻　隆
▽製造予算—近代企業経営合理化の一方策として—
○札幌トヨタ自動車株式会社
山田恒夫
▽コントローラーの資料報告機能と内部監査制度、コントローラー制度の日本的あり方を中心として
○札幌トヨタ自動車株式会社
八木俊昭
▽メイヨー一派の人間関係研究と労働組合
○新三菱重工株式会社北海道支店
（岡本ゼミ）
八田信一
▽日本保険組合の経営に関する一考察
○
南部英昭
▽証券取引所の機能に関する一考察—公共的取引機関としての機能—
○北海道新聞社
加藤昭彦
▽市場調査と販売政策
○明治生命保険相互会社
前田英夫
▽小規模企業における経営の合理化について
○株式会社今井商店
阿部和男
▽広告経営論—広告活動からみた経営の一考察—
○札幌トヨタ自動車株式会社
工藤俊也
▽近代経営学における問題点
○北海道中央自動車株式会社
丸山修三
▽近代的販売経営における広告の活用と広告の効果概念
○帝国製麻株式会社北海道支店
宮城　敬
▽販売管理についての一考察
○中央バス株式会社
西畑　明
▽北海道中小工業の考察
○北海道拓殖銀行
新見光雄
▽経営分析方法論
○
大島輝八
▽現代経営経済に対する若干の考察
○[illegible]油脂株式会社
柳谷和三郎
▽需要決定論
○
勝野靖夫
▽P・Rに関する若干の考察
○日銀
杉山　博
▽広告活動の科学化—主として広告表現の合理化について—
○
西崎　晃
▽A・D・H・キャプラン著「小企業—その地位と問題」
○
竹内　敏
▽国際貿易論
○明治乳業株式会社
蛭井　稔
▽トップ・マネージメントに就いての一考察—その機能に関連して—
○三菱製紙株式会社
村松　稔
▽証券取引所に関する一考察—その機能に関連して—
○
米田英明
▽北海道における機械製作業の一考察
○
石坂雄二
▽わが国中小企業の合理化に関する一考察
○北海道拓殖銀行
西田　博
▽販売促進と商品計画
○[illegible]株式会社
山名　勝
▽中小商店の経営分析に関する一考察
○日銀
（坂口ゼミ）
阿部武雄
▽利子率決定理論とその現代的展開—貨幣的利子論と実物的利子論との総合に関する一試案—
○東海銀行
早川昌明
▽ミーゼス「貨幣及び流通手段の理論」の研究
○北海道銀行
井田英彦
▽経済循環と貨幣理論との連関に関する試論—ウイクセル及びハイエクを中心として—
○北海道中央自動車株式会社
鍛冶谷明
▽ハンセンを中心とする景気循環論の研究
○北海道銀行
桑原　博
▽貨幣と経済理論
○新光製糖株式会社
中村正雄
▽利潤及び利子率に関する一考察
○北海道拓殖銀行
中尾　稔
▽安定の意義及び安定政策の理論に関する若干の考察
○[illegible]自動車工業株式会社
中内正明
▽貨幣理論の近代的展開に関する方法的考察
○安田火災海上保険株式会社
中村信雄
▽現代利子論の動向に関する考察
○北海道拓殖銀行
大石正明
▽インフレーションと経済理論
○国策パルプ工業株式会社
大沢　浩
▽資本蓄積に関する問題—「貨幣論」より「一般理論」を通じて
○日本生命保険相互会社
鈴木俊明
▽財政及び貨幣政策の関係について—財政の新しい役割—
○札幌工業株式会社
鈴木　裕
▽利子率決定の相互関係を論じて—景気循環理論を中心として—
○北洋相互銀行
塚本清夫
▽フイッシャーの貨幣数量説
○北洋相互銀行
牧田弘三
▽オーストリア学派に於ける資本理論と景気循環論
○株式会社今井
鎌田　実
▽購買力平価説を中心とする為替相場決定理論に関する若干の考察
○第一相互銀行株式会社
我妻和征
▽デヴィッド・リカルドの地代理論—彼れの価値論と相関係して—
○北海道中央自動車株式会社
山田守夫
▽ケインズの貯蓄投資理論
○
大和命明
▽公債政策の研究
○北海道信用金庫

新会員各位へ

本年三月の卒業生で就職先並び住所の決定された方は早急に御通知下さい。御通知の際は勤務地と現住所を併せて御記載されるようお願い致します。尚緑丘会費（入会金、五百円、一ケ年分会費、弐百円）未納の方は卒業後に於て納入下さることを兼ねてお願い申上げます。

振替口座小樽三〇〇一番

緑丘会員へ御依頼

会員の移動は速刻御通知下さい。勤務先及び住所を移動された方、同期卒業の方の消息（移動又は死亡）を御承知の方は速に御通知下さい。又住所不明の方をお忘れなくお願い致します。緑丘会本部の会員名簿は常に御面倒に添のないよう正確に、緑丘会本部と会員諸兄とが住所不明により連絡不充分とならぬようにしたいと思って居ますから、皆様方の御協力を切望致します。

クスリ化粧品
商大薬局
商大通り 〒6298

技術と信用
S 洋服店
小樽市稲穂町[illegible]
商大生特別割引